

令和4年度 第1回柳井市総合教育会議 会議録

1 会議の開催

(1) 日 時 令和5年1月13日(金) 開会 午後3時00分
閉会 午後4時30分

(2) 場 所 柳井市役所 3階大会議室

2 出席者

市 長	井原 健太郎
教育長	西元 良治
委 員（教育長職務代理者）	西原 光治
委 員	厚坊 俊己
委 員	横山 志磨
委 員	瀬山 真紀子

3 出席事務局委員

教育部次長（図書館・サンビームやない担当）	石岡	雅朗
教育総務課長	室田	和範
学校教育課長	藤村	信之
生涯学習・スポーツ推進課長	大岡	弘明
学校給食センター所長	脇村	直孝
教育総務課長補佐（書記）	西本	佳孝

4 傍聽者

なし

5 協議事項

- (1) 学力向上の取組について
- (2) サンビームやないの運営について

6 議事經過

(1) 開会

教育総務課長から、令和４年度第１回柳井市総合教育会議の開会宣言があった。

(2) 市長あいさつ

今日は、令和４年度第１回柳井市総合教育会議ということでありますが、これから１時間ということで限られた時間ではありますが、よろしく願いいたします。なお、先程、１時３０分から教育委員会会議があつて、その後ということでお疲れのことと思います。

年の初めでもございますので、ちょっとだけお話をさせていただきますと、先週土曜日、3年ぶりに当初の予定どおり柳井市では「二十歳の集い」を開催することができました。今回も教育委員の皆さんはお越しいただけなかったと

ということですが、以前ですと御臨席いただいて、晴れの姿を教育委員さんにも御覧になっていただいて、また激励をしていただくような状況がございました。

ただ、今回、3年ぶりの予定どおりの開催ということでございまして、対象は270～280人程度いらっしゃる中で187人の出席、だいたい7割の参加率ということで、2年前は4割、前回が6割くらいしかいらっしゃらなかったということを考えると、参加率もどんどん上がってきているということで、遠方から帰ってくる二十歳の皆さんもより参加しやすくなっているということを感じました。また、スタッフとして12人の方々がいろいろな企画から運営から携わっていただいているというところは、以前の形に戻ってきたということでございます。

今回も、お二人ほど二十歳代表ということで、お話をいただきましたが、偶然だとは思うのですけれども、お二人とも医療関係の夢を持っておられて、お一人はお医者さんになりたい、もう一人は薬剤師になりたいということで、大変立派な御挨拶をいただきました。

先ほど、対象が270人とかお話をしました。ということは、20年前はそれだけの子ども達が生まれて今に至っているということになりますけれども、今では、もうその半分になっているという状況を考えると、なかなか教育現場が抱える課題は複雑になっていると感じています。ちょうど今行っている新年度予算の査定の段階においてもお聞きをしておりますが、少子化、また、その課題・問題がそれぞれに複雑になっている状況の中で、今日はまた大きな課題である「学力の向上」というテーマ、加えて「サンビームやない」、二十歳の集いも今回サンビームやないで行いましたが、ちょっとハプニングがありまして、今までなかったマイクが途中で入らなくなるというようなこと、これも今いろいろな電気機具も含めて対応させていただいているような状況です。

本日は、ちょうどタイムリーな話題を今日2つ用意させていただいておりますので、限られた時間で大変申し訳ないのですが、様々な御意見をいただければと思います。

(3) 協議事項

(教育総務課長)

ありがとうございました。ここからの進行は、井原市長にお願いいたします。

(市長)

それでは、早速協議事項に入らせていただきたいと思います。

まず、テーマ1「学力向上の取組について」ということで、事務局から説明をお願いします。

(藤村課長)

1つめのテーマといたしまして、「学力向上の取組について」ということで設定させていただきました。これにつきましては、子ども達や保護者の方々が、柳井で暮らす幸せを実感でき、安心して子育てができる環境づくりを推進するため

に、学校においては、その一助としまして「分かる」「できる」授業をもとに子ども達の学力を向上させていくことが不可欠であると考えております。しかしながら、今年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率では、特に小学校においては算数の平均正答率が全国、または県平均と比べて低い状況にございました。こうしたことから数学的思考力の育成に重点を置いて取り組むことで、論理的に考える力の育成に繋げ、もって学力の向上を図っていくということを今考えております。そこで、具体的には学校の組織力の充実、教員の授業力の向上、また、学校・家庭・地域の連携力の強化、この3つの柱で取り組んでいるところで、この後のプレゼンで課長補佐から説明させていただきます。

今からプレゼンで説明をさせていただきますが、この後、御覧になっていただきまして、ぜひ協議で話題にさせていただきたいことが3点ございます。

1点目は、子育てや御自身の経験から、数学的思考力、これを育む上で大切だと感じていることはどんなことだったといったところをお話いただければ助かります。また、2点目は、安心した子育ての視点から、これを踏まえて保護者、親の立場から子ども達の学力向上をどのように考えているのかということ。それから、3点目は、地方創生の視点を踏まえて、地域社会の立場から子ども達の学力向上をどのように考えていくのか、といった3点について話題にいただくと非常に有難く感じております。

それでは、課長補佐の方から具体的な取組を説明させていただきます。

(貴船課長補佐)

失礼いたします。わたくしからは、算数・数学に関する御説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年の4月に行われました全国学力・学習状況調査で、小学校算数科の結果が芳しくない状況でした。そこで、算数・数学科の取組と学力の現状、そして課題解決の試案をお伝えし、共有をさせていただけたらと思います。教育委員会では、「これからの時代に求められる資質・能力の育成」の取組として、6つの取組を行っています。

1つ目は、学力調査です。これは、全学調の問題、標準学力調査及び学力定着状況確認問題です。これらを実施し、結果分析を行うことで授業改善計画を立て実行に移しています。このことで「子どもたちにいつ、何を、どのように、どのくらい取り組ませるのか。」を切れ目なく行い、授業改善や学力の定着を図っています。

2つ目は、校内研修です。校内研修は、教育委員会が主催して行っている「克己堂」があります。小・中の教員や高等学校の教員、そして地域の方が参加し、様々な角度から御意見をいただき、授業者は、新たな視点に気付かされる研修会となっています。また、各校においてユニット型研修を行っています。この研修も同様に、様々な視点から気付きをいただくことができ、校内の授業改善の機運を高めています。

3つ目は、アクティブラーニングのある授業づくりです。子どもが授業者の話

を聞いてばかりではなく、主体的に学ぶことができる授業を行うことで、子どもが「算数の授業が楽しい。分かりやすい。もっと学びたい。」と思えるように取り組んでいます。

4つ目は、ICT機器の効果的な活用の推進です。タブレット端末を効果的に活用した授業や個別学習に取り組んでいます。個別学習では、タブレットドリルで約5,000題の問題に取り組むことができ、苦手な問題に特化した学習ができます。また、デジタル教科書を活用した授業も教科により実施されています。画面への書き込みや各種情報の取得ができ、授業の進め方や宿題の提示方法なども含め、新たな時代に対応した学びに繋がっています。

5つ目は、スクールコミュニティの仕組みを生かした家庭・地域との連携・協働です。学校・地域連携カリキュラムを作成し地域の方々の力をおかりした学習の充実が進んでいます。また、学校運営協議会における熟議では、児童・生徒と地域の方々が膝をつきあわせて学力向上に係る取り組みについて考えを深めています。

6つ目は、家庭との連携による学習習慣の確立です。学びのサイクルを確立するためにリーフレットを活用し、家庭学習の習慣を身に付けられるよう推進しています。

【映し出された資料を見ながら】

ここで、こちらを御覧ください。これは、柳井市内小学校算数科の過去5回分の全学調の結果を示したグラフです。今年度は、県の平均とくらべ5ポイントマイナスという結果でした。こちらは、中学校の結果です。御覧のように、直近の3回は、県平均を下回っている状況です。このように様々な取り組みを行っているのですが、算数・数学の結果に表れていないという現状です。そこで、取組の中身を再検証し、さらに効果の期待できる方策について新たに考え、実行に移すことが必要であると考えています。その方策の一つに、早期の学力把握と基礎・基本の徹底が考えられます。特に算数・数学について考えた時に、小学校では、3・4年生でのつまずきが子どものその後の算数ぎらいの要因となり、中学生以降まで引きずっていくと言われています。

【映し出された写真を見ながら】

そこで、こちらの表を御覧ください。これは、子ども達の学力を2通りの環境条件のもと試算したものです。3・4年生でつまずきが表れたとして、そのことが学校として把握できなかった場合と早い段階から把握がなされ、そのための対策を講じることができた場合に、この図で示されているように、その後の結果が大きく変わってくることが見て取れます。これは、あくまでも試算ですが、算数・数学は御存知のように積み上げの成果が表れやすい教科です。そういった意味でも、特に早期の実態把握と課題対応の取組がまずは大切になると認識しています。

そこで、早い段階から子ども達の学力を切れ目なく把握することができれば、子ども達や教員自身が、その後の方策を立てることができ、基礎・基本に立ち返

って学び直しをすることで、安定した学力を身に付けることができるのではないかと考えます。また、「子ども達の個々の状況に合わせた学び」というものを考えた時に、通常の授業では、ある一定のレベルに合わせたものとならざるを得ません。特に二極化が顕著にみられる算数においては、ある程度、子どものレベルに合わせた授業内容と進度の実現ができれば、子ども達にとってよりよい学びの場へとつながっていくのではないかと考えます。また、一人一台端末が整備されたことを活かして、「個別最適な学び」につながるAIドリルの活用を推進していくことで、「個々のレベル」に合った学習が可能となってくるとも、子ども達にとってより自分に適した学習環境を手に入れることにつながると思います。このような環境を整備、充実してあげることで、柳井市の子ども達の算数・数学における力を付けてやり、ひいてはそのことが他教科の学びへと影響をもたらし、総合的な学力の向上に結び付いていくことを期待しています。

人口問題における「ビジョン」としては、「柳井市は子どもがのびのび育つ町」です。他市町の人々が、このように思い、「柳井に住んで子育てがしたい」「子育てをするなら、柳井市がいいみたいよ」と言ってもらえるまちづくりのお手伝いを算数・数学に特化した取組から広げていくことができればよいと考えています。

(市長)

ありがとうございました。

それでは、ただ今事務局から説明がございましたので、ここからは委員さん方から順に御意見等をいただきたいと思います。

(西原委員)

今回のテーマですが、単純なようで非常に難しいと言いますか、難易度が高いというふうに個人的には思っています。先ほどの数学的思考は人生の中でもベースになっている基本的なところではないかと思っています。数学的人生観の中で私たちも柔軟性を持っていろいろな活動をしていますので、特に社会や企業の観点から言いますと数学が基盤になる部分がたくさんあります。そういった思考を充実することで、自分の頭で考えて自分で解決していくことに繋がる。そういったスタンスが今後はさらに必要になってくると思っている。しっかりブラッシュアップしていただいたらと思っています。

数学的思考力の中で、私が感じている1つのポイントは、物事の定義というものを、しっかり理解して取り組んでいくということが大切ではないかと思っています。

(市長)

最初に私が申し上げなければいけなかったのですが、時間の関係で、できれば3分程度におまとめいただいて、お願いできたらというふうに思います。大変失礼しました。

(厚坊委員)

令和4年の6年生が算数でマイナス5ポイントということでした。全学調は毎

年実施していると思いますが、令和3年度に5年生の時は、結果がどうだったのかということは分かりますか。

(藤村課長)

全学調は6年生が対象ですけれども、標準学力調査の結果では、以前から課題があることは把握していました。

(厚坊委員)

いわゆる正規分布曲線といって、一般的にはできる子とできない子の真ん中が一番高い山になりますが、柳井市の6年生の集団がそういう山なら良いのですが、年によって、できる子が多かったり、できない子が多かったりすることがある。

このマイナス5ポイントというのは、確かにマイナス5ポイントですが、5年生の時の学力から下がってきているのか、5年生の時の低かった学力を引き継いでいるのか、その辺りの分析が大事だと思う。柳井は児童生徒数の規模が小さいので、年度によってばらつきが出てくる。平均点や点数にこだわりすぎないで、一人ひとりのレベルを上げていくことが大切ではないかと思います。

数学的思考力というのは、説明することが難しい。ましてや、教職の一員ではない方が数学的思考力の方向性を示すことは難しいのではないかと思う。私は、数学のための思考力ではなくて数学の考えを用いた思考力、つまり日常生活とかビジネスとかに役立っていくような思考の仕方を学校でやらないと、ただ問題を解くだけの思考力というのはついていけないと思う。数学が現実とマッチしないから面白くないと思う。改善するとしたら、そういったところだと思う。

(瀬山委員)

数学的思考力を育む上で大切なこととありますが、私は幼児期からの遊びや経験が大事ではないかと思います。先ほども厚坊委員が言われましたが、遊びの中から数に関係することを体験する機会が減ってきているので、幼児期から「ままごと」や「お店やさんごっこ」など、もう少しお金の勉強をする機会があれば良いと思いました。

ゲーム機で遊ぶ子どもが多いと思いますが、逆にボードゲームが珍しくて夢中になって遊ぶ子が増えて、そういう子ども達が成長して、理工系に進んで勉強がよくできるようになったという話を聞いたことがあり、数を使った遊びというのが良いのではないかと思いました。

安心した子育て、親の立場からの学力向上についてですが、夏休みの宿題を手伝ってくれるとか、中高生が勉強を教えてくれるとか、すごく有難いと思う。学校の先生ではない地域の人との関わり、同世代、異学年の人との触れ合いというのは、地域社会の立場から子ども達の学力向上に繋がってくると思う。子ども会や地域の行事に入って、知り合いや顔見知りを増やしていくと地元愛にも繋がります。そういうところから地域の人との連携がさらに広がり学力向上に繋がります。

(横山委員)

先ほど6年生でマイナス5ポイント、3年生で分岐点ということで、スライド

を見せていただき思ったことがあります。柳井小の場合6年生は3クラスですが、算数は4クラスに分けて少人数制で教えていただいているようですが、少人数制を6年生でやるのではなく、分岐点の3年生で始めるということも考えていただけると、また違う結果も出てくるのではないかなと思いました。

また、数学的思考力ですが、正直、日常生活で子育てをしていく上で考えたことはなくて難しいと思っていましたが、今回考えてみると日常で自然にあることだと感じました。

(教育長)

柳井市では、5年生で標準学力調査を行っています。その結果を受けて、しっかり鍛えているわけです。今回は、6年生の全国学力調査でマイナス5ポイントだったということですが、おそらく5年生の時の結果を見て、しっかり鍛えて、私達から見るとマイナス5ポイントまで引き上げてきたと考えているわけです。

ですから、先ほどプレゼンの中にもありましたが、算数は積み上げの成果が表れやすい教科なので、切れ目なく把握してやっていくことが良いのではということです。横山委員も分岐点の3年生で対策していれば違う結果になったのではないかというお言葉もありましたが、標準学力調査は全国レベルの現状の学力を把握するということで、もっと下の学年で行えば、その時点で正確に把握して、それを毎年継続して子ども達が次の学年に進んだ特に、どのくらい伸びて、どこの部分に課題があって、その課題をどう克服するかということでやっていくと最終的に6年生あるいは中学生になったら、もっと良い結果に結び付くのではないかと考えています。

(市長)

今までの委員さん方の御意見をお聞きになられて、さらに何かございましたらお願いします。

(西原委員)

先ほど1点ほど言い忘れたのですが、全国学力調査結果のニュースを聞いた中で、相対的に記述式が若干劣っていると認識したのですが、現状はどういう状況でしょうか。

(藤村課長) 確かに記述式にも課題はありますが、これは柳井市だけではなく、全国的、全国的な課題だと思います。記述式に限らず、割合や比例などは、小学校でイメージが付きにくい。また、2年生でかけ算を終えて、3年生で分数を学習する時につまずくことがあるので、この時期に一番力を入れていかないといけない。柳井小も、高学年では少人数制もできているが、中学年ではできていないので、横山委員から非常に良い御意見をいただいたと思っています。

(西原委員)

基本的には、学力向上の鍵は家庭学習だと思っている。家庭のスタイルも徐々に変化しているので、学習の仕方も工夫していかないといけない。家庭の中での質と量を十分考えながら、定着した学習を習慣付けていく必要がある。

先ほど、教育長からも「積み上げ」という言葉が出たが、努力の連続が「志」

に繋がっていくので、地道に努力するほかないと思う。

(市長)

ありがとうございました。それでは、テーマ2「サンビームやないの現状と課題」ということで、事務局から説明をお願いします。

(石岡部次長)

サンビームやないの今後の運営方針について、御説明いたします。

【サンビームやないの運営方針についての経緯】

これまでの運営方針の検討の経緯についてですが、平成19年5月20日に、第1回検討会を開催しています。検討会のメンバーは、参考資料の11ページ上段のとおりで、サンビームと関係が深い方となっています。

当時、サンビームは建設後21年が経過し、外観はさほど老朽化は感じられませんが、設備面での老朽化が進み、再投資をしなければいけない時期に来ていました。しかし、音響や照明設備の改修には多額な費用がかかること。また、財政健全化法案が平成19年3月に閣議決定されて、6月22日に公布された時期でもありました。夕張市の財政破綻もあり、全国の地方自治体が財政健全化をしていかなければいけないという状況の中で、柳井市もサンビームの現状について、市民の皆さんにサンビームやないの状況を明らかにして、運用改革案の提示をしています。

改革の内容は、①照明設備等の大規模改修は、当面の間計画をしない。②安全装置に係る不備については、基金の活用を含めて進める。③ホールの貸館については、老朽化の現状を説明して条件付きで運用する。④自主文化事業（特に買取事業）は当面の間中止する。⑤常勤職員を置かず非非常勤職員で対応する、などの方針案を決定しておりまして、第3回の検討会で了承され、この方針が今日までの基本となっています。

平成21年度には井原市長が就任し、業務休止に係る庁内協議を開催していますが、最終的には検討会の意見を尊重していくということで結論が出ています。その後、空調設備の故障などもあり、平成24年度に、庁内会議を開催し、19年度の方針に加え、照明がダウンした場合は限定貸館にする、貸館中心の運営を行うとしています。また、高齢化した職員の後継者の育成や経費をかけずに有効活用し、市民の文化の振興に寄与するということも付け加えて結論づけています。

後継者の育成については、平成31年4月に舞台関係職員1名を配置しています。

【サンビームやないの現状】

設置目的については、資料のとおりです。長所としては、すぐれた音響を持つ全国有数のホールで、柳井地域の芸術文化の中心施設である。また、短所としては、客席数が1,108席なので、高額公演は収支が赤字となる。

利用状況については、令和3年度の年間使用日数が58日ということで、コロナの影響により入場者数は減少しているものの、運営方針転換後の使用日数は、多少の増減はありますが、大きな変化は見られない。

自主文化事業については、サザンセット音楽祭のみを実施してきたが、令和元年度からスタインウェイを弾く会、令和4年度は、次世代アーティストのコンサート、本年3月には、平成19年以来となる買取公演ということで「ぶるぼんの感謝のお笑いライブ」を実施する。

職員体制については、正職員2名は、図書館と兼務。貸館時は、舞台等管理業務を太陽通信に、開館作業補助をシルバー人材センターに委託して対応している。

維持管理費については、人件費を除く経常経費は約2,600万円で使用料収入は約600万円。基金残高は、令和3年度末で約1億2,300万円となっている。

【サンビームやないの課題】

- ① トイレの洋式化については、家庭や学校等で洋式化が進む中、喫緊の課題である。
- ② 舞台照明については、シーリングライトを除きハロゲン照明となっているが、今後カーボンニュートラルを進めるためにも、使用頻度の高い照明については、LED化を進める必要がある。
- ③ 平成19年度以降買取公演を実施していなかったため、企画運営に関するノウハウが継承できていない。現在技術系の職員は1名配置しているが、自主文化事業を進めるためには企画運営担当の職員配置も検討課題である。
- ④ 直営であるため、他団体のチケット販売を職員が扱えない。また、指定管者を検討するとき、他館で指定管理者になっている「文化振興財団」が、柳井市には存在しない。

こうした現状と課題を踏まえ、資料5ページに運営方針(案)を示しています。

【令和5年度以降の運営方針(案)】

- ① 舞台照明設備等の大規模改修については、これまでの、計画しないがダウンした場合は限定貸館とする、という方針から転換し、使用頻度の高い照明のLED化やトイレの洋式化に取り組みこととしています。財源は、過疎地域に指定されているため、過疎債が活用できると考えています。
- ② 修繕については、これまでどおりとしています。
- ③ 貸館運用については、クラシック系の音楽コンサートや演劇、文化講演会などを中心とし、音楽ライブなどは、主催者による照明設備等の持ち込みで対応したいと考えています。
- ④ 自主文化事業については、市民の皆様に文化芸術を鑑賞できる機会の提供に努めていきたいと考えていますので、買取公演は当面の間休止するという、これまでの方針を改め、継続的な実施に努めることにしています。
- ⑤ サンビーム職員につきましては、文化ホールとしての特殊性から、運営係と技術係の専門的な知識を持った職員が必要であると考えておりますので、図書館移転後の管理体制も含め、職員体制の見直しを検討したいと考えています。

平成20年4月に、サンビームやない条例を一部改正し、職員を置くことができるという条項を削除しておりますので、令和5年度に条例改正を検討したいと

考えています。

⑥ 総括として、サンビームやないは本市の貴重な財産であるとともに、文化芸術の拠点施設として、適切な維持管理や管理運営体制の構築を図ることとしています。

【参考資料】

サンビームやない運営基金残高の推移について、平成19年に方針を出した時に4,000万円弱の取り崩しを行っていますが、平成30年までは基金を取り崩さずに運営をしている。当然大きな買取公演もやっていませんので、このような状況が続いている。令和元年と令和2年に2回ほど2,000万円程度ずつ基金の取崩しを行っている。柳井市の財政、教育委員会の図書館、体育館、学校建設事業が進む中で、2,000万円程度ずつ取崩しをしているが、令和3年度は財政課の配慮で取崩しは行っていません。

サンビームやない使用日数について、平成19年の方針決定後ずっと下がってきていますが、平成27年には回復している。特に柳井中学校の文化祭や吹奏楽の発表会などでたくさん使っていただいている。その後も少しずつ下がってきているが、令和3年度には53日まで回復し、今年度は今のところ約90日まで回復している。柳井小学校の記念行事、市公葬、県の文化祭の引受け等々行っているので10回程度は突発的な行事もあるため、実状としては80日くらいまで回復している。特に柳井高校吹奏楽部の利用増加が要因となっている。

【設備改修状況及び今後の計画】

平成17年度あたりからいろいろな工事を行ってきており、サンビームにお金をかけていないのではなく、実は2億1,000万円くらいは改修費に投資している状況である。今後の計画としては照明設備については一番使用頻度の高い天板やボーダーライトのLED化費用として約5,000万円を見込んでいる。

空調設備については、平成25年度以降順次改修している。また、音響設備については、開館当初から長く使用しているため、サブ機として音響卓の整備をしている。しかしながら適切な時期に更新していかなければいけないと考えている。今後、その他諸々の改修もありますが、先ほどお話ししました過疎債等を活用して、実施計画に計上し、実施していきたいと考えている。

【職員配置状況】

- ・平成19年度以前

正職員3名（館長＋2名） 兼務職員2名（図書館職員が兼務）

- ・平成20年度～21年度

兼務職員3名（館長は本庁教育委員会の課長、2名は図書館職員が兼務）

- ・平成22年度以降

兼務職員3名（館長は図書館長、2名は図書館職員が兼務）

（市長）

それでは、横山委員から順に御意見をいただきたいと思います。

（横山委員）

買取公演とは、どういうものでしょうか。

(石岡部次長)

興行主にお金を払って、公演を実施していただくものが買取公演でございます。

(横山委員)

チケットが売れないと赤字になるということですか。

(石岡部次長)

そのとおりです。サンビームの職員がチケットを販売します。

(横山委員)

サンビームの職員は、他団体のチケットの宣伝ができないということですか。

(石岡部次長)

サンビームやないの職員は、条例・規則により他団体のお金を扱うことができないので、他団体のチケットの販売ができません。例えば、ウインドミルハーモニーさんなどがサンビームを使用して発表会をされていますが、御自身の団体でチケットを販売しています。

他館では、指定管理に委託をしているので、他団体からチケット販売委託料をいただいて販売をしているという状況です。

(横山委員)

今後、サンビームの改修を行う際に飲食可能なスペースをつくっていただいたら市民の方々も足を運んでいただけるのではないのでしょうか。机や椅子が置いてあると親子でも簡単に立ち寄れると思います。

(石岡部次長)

ホワイエ、ロビー、楽屋等では飲食可能ですが、ホール内については飲食を御遠慮していただいている状況です。今後、図書館移転後の跡地利用計画を立てなければいけませんので、委員さんの御意見も検討課題であると考えています。

(瀬山委員)

柳井市には文化財団のような組織が無いということですが、市民から年会費をいただいて公演の企画を行ったり、市民が一丸となってサンビームの運営に関わるような組織ができれば良いと思う。

(石岡部次長)

以前はサンビーム友の会という組織があったが、収支が合わないということで解散に至ったと聞いている。今後、そういった組織が育っていけばよいと思うが音楽や演劇などいろいろな分野が一つにまとまっていくことが非常に難しい状況だと感じているので、今後とも各団体のご協力をいただきたいと考えている。

(厚坊委員)

サンビームやないについては、半日借りるだけでも十数万円かかる状況なので使用料が高すぎるから借りられないと思う。赤字ばかりでは自主文化事業はできないので、特に今の時代は貸館業務が主になると思う。

サンビームを活用するような運営団体や開拓してやってくれるような団体があればいい。具体的なものは特にありませんが、柳井市の財産を何とか活かして

欲しいと願っています。

(石岡部次長)

大変ありがとうございます。使用料の件ですが 使用料については県内では一番安い料金形態となっています。冷暖房使用料も込みということで途中で半額にしたので、かなり安くなっていると考えています。

今年度から市内の小中学校が使用した場合は基本使用料を全額、高校生が使用した場合は基本使用料の2分の1を補助する要綱をつくりまして各小中学校や高等学校に使っていただいています。

(西原委員)

光市民ホールは、確か指定管理になっていると思いますが。それで、光の文化を高める会がかなりバックアップしていると思います。

(石岡部次長)

県内で指定管理になっていないのは、柳井市、山陽小野田市、萩市だけです。

(西原委員)

サンビームの件についても、運営方針等をみんなで協議しながら方向性をしっかりと決めて、課題を解決していくためのプロジェクトチームをつくっていったら良いと思う。

先ほど説明していただいた課題をどういう手法でどのように解決をしていくか、私なりに考えてみましたが、コストの関係については、例えばクラウドファンディングの活用や寄付活動を推進していく。チケット販売の関係については、文化連盟とタイアップしながら協力体制をつくっていく。そういったシステムも必要ではないかと思う。また、柳井市に文化振興団体がいないことについては、財団の設立を考えていく必要がある。そのためには文化連盟とのコラボは不可欠ではないかと思う。

さらに、それぞれの地区でそれぞれの特色を活かした活動をされていますが、可能な限りサンビームを使用していただくと、みんなで文化を共有していくPRになるので、文化連盟としっかり協議していくシステムを構築していったら良いと思う。

(市長)

ありがとうございます。本日は若干時間をオーバーしましたが、いろんな御意見をいただきましてありがとうございます。

それでは、進行を教育委員会にお返ししたいと思います。

(4) 閉会

教育総務課長から、総合教育会議の閉会の宣言があった。